とうにフットパスマップ

小白浜・片岸編

大槌 フットパスマップ

「フットパス」とは、イギリスを発祥とする『森林や田園地帯、古い街並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くこと【Foot】ができる小径（こみち）【Path】』のことです。

フットパスは、その地域の方々の長年にわたる自然への働きかけや、風土に根ざした伝統的な生活スタイル、土地への愛着などの結果として生み出され、維持・管理されてきた「ありのままの風景」を楽しむ道です。

この冊子では、三陸鉄道南リアス線の唐丹駅を起点にの 3 つのフットパスルート―「伝城ルート」「新道峠ルート」「奇巌亭ルート」＋ α をご紹介します。

地域住民の方々に感謝を忘れずに

- ●ウォーキング中はウォーカーや地元住民の方々に会ったら挨拶を交わしましょう。
- ●ルート以外の道や人の家の敷地内には入らないようにしましょう。
- ●誰もが気持ちよくフットパスを楽しめるよう、地元の方々に配慮した行動を心がけましょう。

服装等 注意点

長袖、長ズボン必着。
山道では軍手があると便利。

＊虫よけスプレー必須。
（虫、植物かぶれ対策）

ごみはすべて持ち帰ること。

山火事防止のため、火の取り扱いに注意。

靴はトレッキングシューズなどのしっかりしたものを履く。

帽子（ハチ対策）
★ハチは黒いものを襲うので、黒い服は着ないこと。
香水やジュース、お菓子などの甘い香りを放つものはハチを興奮させるので避けること。

リュックサックなど両手が自由になるかばん

クマよけの鈴（クマ対策）

水分は多めに持っていくこと！

私道はルートになっている場所のみ通行可。（特に山道）

＊道を外れての田畑・樹林・屋敷などへの立ち入りや、ゴミの放置、動植物・山菜・農作物の採取などの行為は、絶対に行わないでください。
またルート上は原則禁煙です。

＊奇巌亭ルートではしきっち通りに商店あり。

＊駅前で最終装備を整えよう。

★駅前にトイレあり。

唐丹駅徒歩１分「**ひまわり**」
営業時間：7:00 ～ 18:00 日曜定休
電話：0193-55-2433

① 伝城ルート　所要時間：約 1 時間 30 分

川底まで透き通る美しい清流が広がる片岸川沿いの地域です。
川沿いの民家の横から始まる山道を登り切った先には三陸の山と海を臨み、川と山、海という唐丹の自然を堪能することが出来ます。また、山中には伝城の石垣などがあり、地域の歴史も感じられます。

① **「唐丹駅」**からスタート。
東口から国道 45 号へ出て左へ道なりに進むと片岸川が見えてくる。

② **片岸川を渡る手前で左へ**曲がり、川沿いの道を**上流方向へ進む。**

③ **秋になると鮭が遡上**してくる。昔は日本有数の鮭の遡上だったが、現在は 1/10 程度に減少した。

④ 片岸川の**川辺を歩いてゆく。**

⑤ **鮭の養殖場**が並んでおり、秋に遡上してきた鮭の卵を取ってはここで養殖をしている。

⑥ **鮭の供養塔**が建っている。
人々が生きるためとはいえ、尊い生命を失った多くの鮭の鎮魂のために建てられた。

★ 鮭の碑から山側を見た景色が綺麗。

⑦ **片岸橋**から**上流方向から向かって三陸復興道路・三陸鉄道の順に見ることができる**。また、**下流方向には**震災後 14m の高さにまで**嵩上げされた強靭な防潮堤を臨む**ことができる。

⑧ 片岸橋を渡り**川沿いの道を上流方向に**進み、**小屋が見えてきたら右側の道へ進み、左側の坂を登る。**

⑨ **民家が見えてきたら、右側の山道に入る。**
ここから足元が険しくなってくる。

⑩ **左手の斜面の上にお墓**がある。

⑪ **下方に平らな道**が見える。
伝城の周りを囲んでいた道と想定される。

⑫ **平原**は、最近まで畑として利用するために耕されていた。
肥溜めと思われるものもある。

⑬ **視界がひらけ、眼下に唐丹湾を臨む。**
晴れた日には、青い空が海面に反射して青い海と山の緑のコントラストを楽しむことができる。

⑭ **伝城の石垣**が残る。この平原に伝城が建っていたと推察される。

★ 豊臣家の出城があったのではないかといわれている。

⑮ **左手上方にポンプの跡**が確認できる。
昔、片岸川からポンプアップして上水を小白浜へ運んでいた。

⑯ **道を下り**ながら右手側には唐丹湾を臨む。

⑰ **国道に出たら右折**して戻る。

② 新道峠ルート　所要時間：約 2 時間

庚申塔は葛西昌丕（かさいまさひろ）が天保の大飢饉の際有力者から資金を集め、貧しい人々を日雇いし新道峠（清水峠）の普請を行ったことを記念して建立されました。
荒川地区から片岸・唐丹地区へ向かう際に使われていた熊の木峠は、新道峠ができたことで使用されなくなりました。このように、新しい道が作られると同時にこれまでの道が使われなくなるということが繰り返されて、現在の新道峠は幅の広い山道になりました。

①「**唐丹駅**」からスタート。**東口から国道 45 号へ出て右手に進む。**
② すぐ分かれ道が出てくる。**左手の下り坂を降り、旧国道 45 号線を道なりに進む。**

③右手の階段を上がると**天照御祖神社**がある。神社には葛西昌丕が書いた常龍山碑がある。

④**旧国道にもどり、分かれ道を左に**下る。

⑤ **新しい鳥居と石碑**。昭和８年の地震による津波により、お墓が別の場所に移動した。

⑥ 来た道を戻り**旧国道にでて道なりに進む**。
桜並木があったが伐採された。

⑦ **旧国道を道なりに**進む。
（**庚申塔登り口の標識**がある。）

⑧ **眺望が良く、唐丹湾を臨むことができる。**

⑨ **新道峠の入り口に入る**。（**庚申塔登り口の標識**がある）

⑩ **分かれ道**がある。左方向へ進むと、林道へと続く。**庚申塔に向かうには、右方向へ約 20 分山道を進む**。それ以降、途中に分かれ道はない。

⑪ **庚申塔**に到着。裏面には、葛西昌丕が新道峠を作った経緯が書かれている。

★ 泥浴びの跡、足跡、食べた木の皮など、さまざまな鹿の形跡がある。
★ 電線の漏電防止のため、へびよけがある。
★ くまが出ることもあるため、注意！

庚申塔の裏面

庚申塔に記された葛西の想い

新道峠の頂上にさしかかると大きな赤松があり、そばに庚申塔がある。庚申塔の表面の書は盛岩寺１６世佛山和尚の書である。裏面は葛西昌丕が「天保４年五穀不実にして飢饉に及ぶ、当村貧窮のもの朝夕の食事に困しめり、余力有者より、金米を備はしめ、これを以て貧家を賑わし、かつ老若男女童を撰ばず、日雇いとして米銭を以てす。(中略) 新道を開発し、古道の険路を除き、楽路を得て永世往来を安からしむ。天保５年４月」と流麗な草書体で記している。唐丹の飢饉を救おうとした葛西の想いが分かる。

⑫ **旧国道にもどる**。庚申塔からつづら折りの下り坂が続いているため、約 20 分かかる。**最後は急斜面**となっているため、足元に注意が必要。**旧国道に出たら、左方向**に進み、来た道を戻る。

⑬ **旧国道を道なりに進み国道にでる**。そのまま進み、唐丹駅に戻る。

③ 奇巌亭ルート　所要時間：約 3 時間

本郷集落と小白浜集落を結ぶ街道として、藩政時代から唐丹村内では最も交通量の多い峠であった**桜峠**があります。尾根を下ると葛西昌丕の隠居屋敷跡**奇巌亭**から海の眺望と山林を楽しむことが出来ます。

①「**唐丹駅**」**東口から国道 45 号に出て左に進む。**

② 道なりに進み、**分かれ道を右**に進む。

③ **しきっち通りに入り道なりに進む。**
かつては伝城通りと呼ばれ昭和８年の津波以降、道路を山に押し込んで宅盤整理が行われ、今の形となった。

④ **盛岩寺**の梵鐘は昭和８年の三陸大津波の時、鐘を鳴らして小白浜の人たちに一早く津波襲来を知らせ、多くの命を救った。昭和の津波のあとと同じ間取りで現在も残っている。向かいに**唐丹小白浜まちづくりセンター「潮見第」**がある。

⑤ **左手方向の坂を登ってゆく**と住宅地に入る。海まで降りることができる路地があちこちに見られる。

⑥ **山道に入って**いき、開けた空間に出る。
旧桜峠である。

⑦ **曲道を抜け、右手に進むと現在の桜峠**に出る。

★ 見晴らしがよく、本郷の景色と、枝毛山がきれいに見える。

⑧ **道なりに下ってゆく**と、「奇巌亭入り口まで 900m」の**標識**が見える。

⑨ 標識の奥の**山道を下ってゆく**と、「奇巌亭入り口まで 200m」の**標識**が見える。

⑩ **尾根を下ってゆくと奇巌亭**にたどり着く。
美味しい湧き水が出ており、疲れた体を癒してくれる。

★急斜面で要注意。　★ 9 月には、山百合・浜菊がとても綺麗！

「奇巌亭入り口まで 900m」

「200m」の標識

⑪ 歩いてきた**山道を**戻り、奇岩亭入り口 900m の**標識まで戻る。**
左手に進み国道を下ってゆくと小白浜の景色を楽しむことができる。秋にはきれいな夕日を臨める。

⑫ **小白浜海岸の水門・防潮堤**は、高潮対策事業として昭和 44 年から 56 年にかけて整備されたが、東日本大震災により防潮堤及び水門の高さを従前より、2.7 m嵩上げする工事が行なわれた。

③ 奇巌亭ルート＋α　菅原神社・雷神宮

菅原神社

旧桜峠から左手に石段を登ると、雑木林の中を**小径が西から北西へ坂道**が続く。頂上には**菅原神社**がある。土地の人はこの場所を「お薬師さん」と呼び、薬師堂があったのではないかと言われているが、正確な敷地跡は分かっていない。

雷神宮

旧桜峠から、**右手に登ると雷神宮**に到着 する。昔は菅原神社と同じように石段が作られていたが、現在は無い。小白浜と本郷の間にある小高い突出部なので見晴らしがよい。

唐丹と葛西昌丕 (1765 - 1836)

葛西昌丕は明和 2 年に唐丹村本郷で生まれ、天文学のほか、歴史や和歌にも精通し、多くの子弟を教育していた。仏ヶ崎の中央部南岸に隠居屋敷（奇巌亭）を立て、天保の大飢饉の対策として新道峠の普請にもかかわるなど、唐丹地域の教育的役割を果たした人物である。

三陸沿岸測量のために唐丹村を訪れた伊能忠敬と所縁が深い人物であり、忠敬の偉業を記念して、「測量の碑」を建立した。同時に、中央に当地の緯度（北緯 39 度 12 分）、まわりに黄道十二宮と、十二次といわれる星座名を記した星座石も残している。碑は全国に忠敬がその足跡をとどめている中で唯一のものである。

③ 奇巌亭ルート＋α　海岸

⑬「**七つ岩**」
波がぶつかる音がそれぞれ違う。

⑭「**白崎湾**」。水かぶりの岩の根、シララのシラをとってシラ崎としたものと言われている。秋の夕日がきれいに見える。

⑮「**垂水（たれみず）**」。水が垂れているように見える岩礁。

⑯ **弁天様**が祭られている。
また**アワビの養殖**も行われている。**トンネル**があり、泳げる。

⑰ 丸石が多く、**遊ぶことができる小さい浜**がある。

⑱ **海鳥が休む岩礁**がある。

とうにフットパスマップ

2020 年 3 月 20 日　初版発行
製作：神田順、西一治、倉田充
薬袋奈美子、山口英里香
大山祐加子、木村文香
石田雅美、山村莉歩
監修：唐丹公民館
編集：麓絵理子　協賛：㈱三誠